

つれづれなるままに 第9号

平成30年 7 月 22 日 (日) 発行



校長 深谷 浩一

中央，意地で一矢！

～初回の6失点響く！～



7月22日（日），会場を笠間市民球場からノーブルホーム水戸（旧水戸市民球場）に移して、準々決勝が行われました。相手は、これまで夏の大会で3連敗を喫している常総学院。そのリベンジに燃えた一戦でした。



先攻は常総学院。これまで二回戦から四回戦まですべて初回に相手の得点を許してきましたが、この試合も先発高橋君が常総打線につかまってしまいました。二者連続フォアボールでランナーを出すと、3番菊田君のレフト前の2点タイムリーを浴び、続く4番の藤川君にもセンター前に運ばれ、さらに、5番の斎藤君のレフトへの犠牲フライでさらに1点追加されてしまいました。ここで内野手が浮足立ってしまったのか、これまでの試合で堅守を誇ってきたショート野口君、セカンド磯君に痛恨のエラーが出て、さらに2点を追加されてしまいました。その後、デッドボール、センター前ヒットを浴びて、この回一気に6点を失ってしまったのです。

その裏の攻撃では、先頭打者の高野君がライト前ヒットを放つも、ファーストまでアウトになり、3番野口君のライト前ヒット、4番松井君のフォアボールで、2アウトながらランナ一、二塁と攻め立てたものの、磯君が三振に倒れ、惜しくもチェンジ。得点を挙げることはできませんでした。

二回に入ると、高橋君は冷静さを取り戻し、先頭打者にレフト前に運ばれるも、後続を断ち得点を許しませんでした。しかしながらその裏の本校の攻撃では、石田君が平凡なフライを打ち上げ、平澤君、高草木君はともに三振を喫してしまいました。

三回の常総学院の攻撃は、平凡なフライで簡単に2アウトを取ったものの、デッドボールで出塁を許したあと、レフト前、センター前と2本のヒットを浴びて2点の追加点を許してしまいました。簡単に2アウトを取った後だけに、惜しまれる失点となりました。その裏の本校の攻撃は、ピッチャーの高橋君に代打谷萩君を送り、デッドボールで出塁するも、1番高橋君が三振、2番小沼君がサードゴロ、3番野口君がセンターフライと凡打してしまい、得点にはつながりませんでした。

四回からは、ピッチャー川名君を投入し、先頭打者こそフォアボールで出塁させてしまったものの、その後の3人を見事打ち取ったのです。その裏の4番松井君からの攻撃に大きな期待がかけられましたが、松井君はショートゴロ、磯君が三振、石田君がセカンドゴロと三者凡退に打ち取られてしまいました。

五回に入ると、川名君は常総打線の連打を浴び、3失点。ここまで11失点と打ち込まれてしまい、「5回コールド負け」の状況になってしまいました。

しかし、ここでこのまま終わらないのが今年の中央の強さです。生徒たちは五回裏の攻撃に最後の意地を見せてくれたのです。7番平澤君がピッチャーゴロで倒れたあと、高草木君がフォアボールを選び、ピッチャー川名君に替って代打佐藤君を送りました。佐藤君は凡退してしまったものの、続く高野君がレフトオーバーの大きな当たりで、セカンドにいた高草木君が一気にホームに返り、執念で一矢報いることができたのです。

試合は11対1で敗れてしまいましたが、本校はノーシードながら、「全員野球」で一戦一戦根気強く戦い、「中央高校、ここにあり」と多くの人に思わせるような試合を展開してくれました。

これで、この10年間で本校が3回戦以上勝ち上がったのは4回目になり、そのすべての大会で常総学院に負けてしまったことになりますが、甲子園への道をまだまだ諦めてはいません。そうです。諦めない限り、必ずまたチャンスが巡ってくるのですから。（おわり）

Scoreboard details:

- Home Team (Left): 東北楽天ゴールデンイーグルス (Tohoku Rakuten Golden Eagles)
- Away Team (Right): 中日ドラゴンズ (Chunichi Dragons)
- Score: 6-1 (Home: 6, Away: 1)
- Inning: 7th (7回)
- Top of the 7th (7回表): Home team batting, 1 out (1アウト), 0 runs, 1 hit, 0 errors.
- Bottom of the 7th (7回裏): Away team batting, 1 out (1アウト), 0 runs, 1 hit, 0 errors.
- Current Batter: 加藤 (Kato)
- Current Pitcher: 加藤 (Kato)
- Umpire: 木本 (Kikimoto)
- Fielders: 野島 (Nojima), 井口 (Iikuchi), 田澤 (Tazawa), 藤本 (Fujimoto), 武蔵 (Mutsu).